

製品名: AKT ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab01399**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,FC,IP |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|---|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200,FC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50 |
| 分子量 | Calculated MW: 56 kDa; Observed MW: 56 kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | AKT3 |
| 別名 | MPPH; PKBG; MPPH2; PRKBG; STK-2; PKB-GAMMA; RAC-gamma; RAC-PK-gamma |
| 遺伝子 ID | 10000 |
| SwissProt ID | Q9Y243 |
| 免疫原 | 標的タンパク質に対応する合成ペプチド |

背景

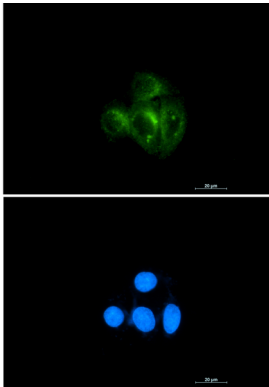
AKT3は、AKTキナーゼと呼ばれる3つの密接に関連するセリン/スレオニンタンパク質キナーゼ（AKT1、AKT2、AKT3）の1つである

り、代謝、増殖、細胞生存、成長、血管新生など、多くのプロセスを制御します。これは、下流の様々な基質のセリンおよび/またはスレオニンリン酸化を介して媒介されます。これまでに 100 を超える基質候補が報告されていますが、そのほとんどはアイソフォーム特異性が報告されていません。AKT3 は、最も研究の進んでいない AKT アイソフォームです。AKT3 は脳の発達に重要な役割を果たし、悪性神経膠腫細胞の生存に不可欠です。AKT3 アイソフォームは、IL13 を介した MMP13 のアップレギュレーションとダウンレギュレーションの鍵となる分子である可能性もあります。ミトコンドリア生合成と、成長因子によって引き起こされる細胞エネルギー需要の増加との調整に必要です。RNA 干渉によるダウンレギュレーションにより、BAD のリン酸化形態の発現が減少し、カスパーゼ依存性アポトーシスが誘導されます。

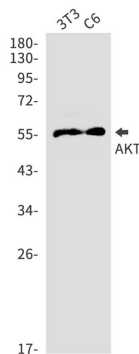
研究分野

シグナル伝達

画像データ

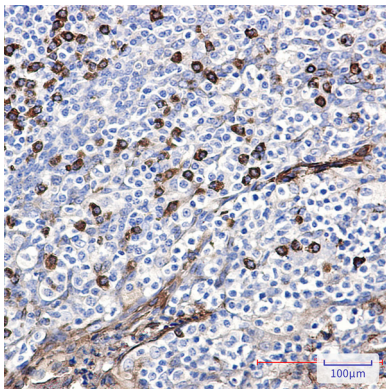
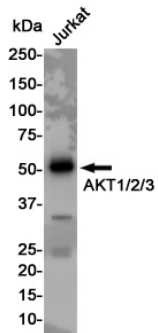


AKT 抗体と DAPI (青) を使用した A549 の AKT (緑) の免疫細胞化学分析。



AKT 抗体を使用した 3T3、C6 溶解物中の AKT のウェスタン ブロット分析。

Akt 抗体を用いた Jurkat 溶解物中の Akt (pan) のウェスタンブロット分析



AKT1/2/3 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。